



TITLE:

天界新知識 (皇太子御降誕奉祝)

AUTHOR(S):

CITATION:

天界新知識 (皇太子御降誕奉祝). 天界 1933, 14(153): 90-103

ISSUE DATE:

1933-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165467>

RIGHT:

狼 星＝燦々光生し角 臨風色更黄 楚辭遺響在 長矢射＝天狼 池田喜欣
 軍市星＝軍市十三星 天南燄＝環座 武器知満し場 万古不＝曾鎖 〃
 弧矢星＝引し弦持し満急 弧矢九星懸 ●也觀＝何物 由來狼在し天 〃
 野鷄星＝野鷄何報し曉 芒角有し時搖 軍市連環裡 一星空寂寥 〃

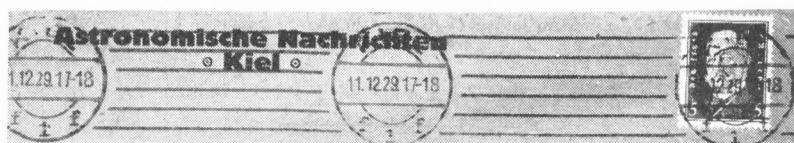
12. 神話 犬はオリオンに伴はれて居る獵犬である。マスク・ミュラはシリウスの現はれる季節は夏の盛りで犬が發狂するので、此の星を Dog Star といつた。

シリウスに就いて一つの笑話がある。私の親族によく肥えて居る婦人がある。ある時その家庭で、一夜天を仰いで星の話をして居たとき、『あの白く輝いて居る星は犬大座α星で、其の光輝は全天第一で、α星の固有名をシリウスと云ふのである』と説明したら、子供は母と天とを見較べてクスクスと笑つて止めない、何故か初めは了解されなかつたが、子供は「シリ」は尻、「ウス」を臼と普通の上から判斷して、母親のお尻は臼の如く大なるところから、尻臼＝Sirius と連想したものである。其の後同家を訪問したとき、甥や姪が伯父さん今夜はシリウスが見えますかとてニコニコして居た。

新ダンロブ天文臺の進況その他

目下、米大陸には二つ三つ大天文臺の計畫や建設が進行中であるが、其の一つである Dunlop 天文臺の近況を聞くに、此の天文臺はカナダのトロント大學のために、故 D. A. Dunlop 氏の記念として未亡人から寄附されたものであつて、場所はトロント市の北12マイルにある Richmond Hill 村の一角で、177エーカーの地をとり、設備は英國 Grubb-Parsons 會社製の口径188糎(74吋)の反射鏡を主とし、尙ほ R. K. Young 氏の作の徑48糎(19吋)反射鏡や、25糎の屈折機等を置く筈である。大鏡の材料は Corning 硝子會社製の特別(膨脹係数は普通のパイレキスより25%も少い) Pyrex 硝子(徑195糎、厚さ32糎)を去る六月21日に鑄造した。アンニリングが済み次第、去る九月頃英國へ送られた筈

因みに、米國 N. Y. 州 Corning 硝子會社は此の他にも、McDonald 天文臺のために徑200糎の Pyrex 硝子を、又、カリフォニヤの工業學院の天體物理天文臺のために徑500糎の Pyrex 硝子を作る筈である。



天 界 新 知 識

二重星 γ Cancri, AB 及び Cc の軌道

中亞タシケント天文臺の N. Voronow 氏は、1800—1933年間の總觀測から、次の軌道要素を計算した。方法は Seeliger 法である。〔Tashkent Circ. 19〕

AB 系				Cc 系
	P =	57.999年		17.460年
A =	-0.9000	T =	1930.060	1931.0
B =	-0.0166	e =	0.3341	0.204
F =	+0.0119	a =	0''9060	元期 E=1900.0 0.214
G =	-0.9049	i =	+ 7°044	± 56.6
	ω =	112.990		60.0
	Ω =	68.516		245.0

AB系は古くより二重星として知られてゐた有名なものであるが、Cc系といふのは主として C星の不規則運動から Seeliger が先づ暗黒星の存在を考へ其れを C星としたので、Burnham 等は此の假説を早尙としてゐた。

ロシア國立ブルコフ天文臺長

露國のブルコフ（レニングラードの南郊）にある國立中央天文臺長に今回 B. P. Gerasimovic 博士が新任された。氏は近年まで米國ハーヴァード大學及びパキンズ天文臺に研究してゐた人である。

米國の黃道光研究主任

米國では今春まで Glanville 師が熱心に黃道光の觀測や指導をされてゐたが、先頃死去されたので、今回 Franklin W. Smith 氏（住所は 407 Scott Avenue, Glenolden, Pennsylvania）が其の後をつがれることになり、本年十月號の P.A. 誌上より月報を書き始められた。

“ 隕 星 ”

地球の表面まで落下して來た天體を、これまで隕石とか天隕石とか、いろいろ我が

國では呼んでゐたが、此等のものには大抵は石質のものと鐵質のものとが多く、始めから可なり判然として區別されるのが普通であるから、一般に之れを“隕星”と呼び、之れを“隕石”と“隕鐵”とに分類することを、花山では申合はせた。

“變 星”

英語で Variable Star, 獨乙語で Veränderlicher Stern を、今まで吾等は時々「變光星」と呼んでゐたが、漢字の本来本元である支那では之れを單に“變星”と呼んでゐるし、實際此の方が簡單明瞭で、間違ひも起らないから、花山では今後、“變星”と呼ぶことにした。

獨國ポツダムのアインシュタイン塔改稱

1920年以來、ポツダムの天體物理天文臺内に新設され一偉觀として知られてゐる Einstein 塔は、今回、ナチス政府の下に改名されて、Institut für Sonnenphysik (太陽物理研究所)と呼ばれるやうになつた。所長は従前通り E. Freundlich 博士である。之れをモデルとした東京天文臺のものは尙ほ「アインシュタイン塔」と呼び續けられるか？ [AN. 249, 13]

小遊星の新命名

第1240番の小遊星は、假名を 1932CD と言ひ、獨國ベルゲドルフの天文臺で昨年二月に發見されたものであるが、去1933年十月31日が同天文臺(ハムブルグ天文臺)の創立滿100年になるので、記念として此の星を“Centenaria”と命名した。[A.N. 5989]

ハイデルベルヒ天文臺の新臺長

昨年死去された Max Wolf 氏の後繼者として、ハイデルベルヒ市外 Königstuhl 天文臺長に H. Vogt 博士が新任され、本年十月1日から就任された。Vogt 氏はイエナ大學の天文學教授兼天文臺長であつた人である。

米國に隕星研究會が創立された

Popular Astronomy の1933年十月號を見ると、米國に Society for Research on Meteorites (隕星研究會)なるものが創立され、去八月21—22兩日、シカゴにて發會式を擧げた由。會長は Frederick C. Leonard 氏、幹事は H. H. Nininger 氏(1955 Fairfax St., Denver, Col.)である。此の種の會は、かねてから我が日本にも創立したいものと考へてゐたのであるが、一寸、米國の方に先きを越された形である。(勿論、世界の、他の國には一つもない。)我が國の如き歴史の古い國には、世に「隕石」や「隕鐵」と稱して、大切に、又は崇拜してゐるものが頗る多い。神社の御神體にも此の種のものが多く存在すること、言ふまでもない。此等のものを、學會の事業によつて一應

調査し、眞偽を確かめたいと思ふ。

隕星研究の學を、米國では Meteoritics と呼ぶやうになるらしい。此の“Meteoritics”は隕星研究者として有名な O. C. Farrington 氏が其の著書の中に初めて用ゐた語である。かつて Shepard は之れを Astrolithology と呼び、Maskelyne は Aerolitics と呼ばうと提議したことがあつた。

「隕星學」は、天文學、地質學、岩石學、礦物學、物理學、化學等の協力によつて、隕星の本質を研究するものである。

アゼンス隕星

去1933年七月11日午前9時30分、米國 Alabama 州 Athens 町の西6哩の所で、一つの隕星が落下し、W. R. Hardiman という農夫が之れを拾得した。全體の重量は 264 瓦、大きさは 5cm×5cm×6.5cm で、表面の95%は黒く焼けてゐる。ごく普通の球粒隕石である。之れが落下したのを Hardiman 等が見た話によると、落下の「5分時」も以前から一種の音樂的なうなり聲がきこえ、次ぎに銃丸の如きシュールといふ音となり、最後にドタンと音して落ちた。近所では爆音らしいものは聞えなかつたが、遠方の人には其れが聞えたといふ。之れで見ると、とにかく、落下速度は案外緩やかで、東北方から急角度で落下したものらしいといふ。〔P.A. 408〕

カロライナ隕星

去る1933年七月1日、米國の南北カロライナの境界附近に、重さ12ポンドの一隕星が落下し、ミシガン州 Adrian 町の Stuart H. Perry 氏の手に入つた。灰色の球粒隕石である。〔P.A. 408〕

1933年度の火星面

英國の T.E.R. Phillips 師が去五月31日大英天文協會の例會で報告した所では、1933年度の火星は、空の位置は良好であつたが、天氣惡のため、又、視直徑が小さいため、多大の困難があつた由。Maria の或るものは例年よりも淡く、殊に南半球のものがひどかつた。火星全面の最暗部は Syrtis Major であつた。Solis Lacus は甚だ淡く、又、canal も一般に淡く、Phison などは單に明暗兩面の一境界線と見たに過ぎない。Nepenthes-Thoth もボンヤリと不明瞭であつた。Propontis I といふ湖は始め極めて暗く、後に淡くなつたが、Trivium Charontis は可なり明瞭、又、平常明るい Elysium は周圍と余り違はなかつた。Nix Olympica は1903年や1918年の時と同様に明るく、又、Propontis I と同 II との間の場所も明るかつた。北極冠の規則正しい縮少は興味あるフィチニアであつたが、Olympia と呼ぶ部は三月12日に他から分離してゐた。〔Obs. 710〕

二重星 $\Sigma 2294$ の軌道

この $\Sigma 2294$ といふ二重星は、ADS 11186 又は β DS 8433 であつて、赤経(1900.0) $18^h 09^m 4$, 赤緯(1900.0) $+0^\circ 09'$, 光度 $7^m 9$ 及び $8^m 2$, 分光型 F2 で、有名な星である。観測は1831年に大 Struve が行つて以來、行はれてゐるが、1880年頃まで、位置角は殆んど不變で、角距離のみ減少の一步をたどる珍しい星であつた。1886年から1895年までは距離が非常に縮まり、世界一の望遠鏡でも單一星のやうに見えたが、1896年に Aitken 氏が二星と見て以來、又々兩星は漸次分離しつつある。兩星の光度が殆んど等しいので1900年前後 Doberck や Lewis 等は位置角を見誤つたこともある。最近、米國 Pennsylvania 大學天文臺の R. H. Wilson (第2世)は、此の星の観測を巧みに整理研究して、T. N. Thiele (A. N. 104, 245(1883)) や Innes-Van den Bos (U. C. 68 (1926)及び86(1932))の方法により下の軌道要素を算出した。

Campbell 要素

P	184.27年
T	1893.08
e	0.906
n	1.9536
a	$0'' 5337$
i	$\pm 106^\circ 12'$
ω	$176^\circ 00'$
Ω	91 42

Thiele-Innes 要素

A	+0.02610
B	-0.53241
F	-0.14777
G	-0.04163
C	± 0.03575
H	± 0.51126
πL	± 0.331 km/sec
πN	± 4.731 \times

尚ほ、Eddington の質量光輝曲線 (Russell の修正と共に)により視差を $0'' 012$ とし、

$$m_1 = 1.2 \times \odot$$

$$M_1(\text{眼視}) = 4.0$$

$$m_2 = 1.1 \times \odot$$

$$M_2(\times) = 4.3$$

となる。

新變星 288 個

米國ミネソタ大學天文臺の W. J. Luyten 氏はハールランド大學天文臺の南阿出張所で獲た寫真板の研究から、多くの微光變星を發見し、今まで下記の如く此等の新發見星のリストを發表した。

リ ス ト	星 数	變 星	發 表 雜 誌
1			A.N. 5868
2	138		\times 5903
3			\times 5975
4	150	400.1933—549.1933	\times 5991
5	138	550.1933—687.1933	\times \times

上記は皆南天の星であるが、第4表や第5表のうち、比較的明るくて、我が日本からも見えるものは下の如くである。

變星假符號(星座)	位 置 (1900.0)		星圖上の位置		光 度	
	^h 6	^m 43.4	^s -34° 54'	^m 42.4	^M 12.0	^m 15.0
400.1933 (Pup)	8	22.0	-29 59	21.0	11.8	13.5
420.1933 (Hya)	10	56.9	-32 18	55.7	12.0	<15.
434.1933 (Cen)	12	52.9	-31 27	51.5	11.8	14.8
445.1933 (Cen)	14	10.6	-31 59	09.1	12.0	15.5
448.1933 (Cen)	14	31.4	-34 24	29.9	11.7	15.7
503.1933 (Sco)	16	55.6	-31 58	54.0	12.5	13.0
577.1933 (Sr)	17	58 02	-31 16	56 26	12.5	<18.
680.1933	18	15 25	-35 38	13 45	12.7	17.3

最近の花山急報の要目

- 花山天文臺の「急報」は、一昨1932年7月25日以來隨時發行されてゐるもので、始めは、主として、第二回極年觀測者のために必要な資料を載せてゐたが、1933年9月、「中村急報」と併合されると共に、其の目的と内容とを改め、一般の希望者に實費で分つこととなつた。希望者は郵券貼布の封筒(宛名記入)と共に實費(一回につき金1錢)を天文臺事務室に送られれば、配布を受けることが出来る。
- 第56號 (1933年9月3日) 急報の續刊について、中村急報を花山急報に合併す、蛇遺座新星 RS.
- 第57號 (1933年9月10日) 蛇遺座新星續報・土星の白紋.
- 第58號 (1933年10月10日) 明るい新變星899.1933. 流星觀測者に望む.
- 第59號 (1933年10月11日) 小遊星(1036)がニメドの接近.
- 第60號 (1933年10月20日) 流星觀測の大計畫.
- 第61號 (1933年10月22日) 本年度第六彗星發見.
- 第62號 (1933年10月30日) 獅子座流星早くも發見さる. 大流星の觀測報告.
- 第63號 (1933年11月4日) 1933 f (Whipple) 彗星の觀測と軌道要素. 10月10日夜の大流星雨.
- 第64號 (1933年11月6日) 太陽黑點の新系列出現か? 1933 f (Whipple) 彗星の觀測につき増補訂正.
- 第65號 (1933年11月9日) 全國の同志に訴ふ.
- 第66號 (1933年11月14日) 1933 f (Whipple) 彗星の豫報位置.
- 第67號 (1933年11月14日) 流星觀測の狀況.
- 第68號 (1933年11月14日) 流星觀測の現況. 1933 f (Whipple) 彗星の觀測.
- 第69號 (1933年11月15日) 獅子座流星觀測の狀況.
- 第70號 (1933年11月17日) 今朝迄の流星觀測概況.